

ヤンゴン素描 No. 28

山形洋一

ユワーマ 泥の河、竹の家

インセインのすぐ北の駅はユワーマである。ユワーYwa は「村」、マ ma は「本」の意。あわせて「ユワーマ」は「元村・本郷」などと訳すことができる。

ユワーマ（本郷）やミョーマ（本町）はヤンゴン首都圏のあちこちにあるが、ここではとくに、植民者向け新興住宅地インセインに対して、「元祖インセイン村」を意味するのだろう。1929-30年の地図にも載っている。

近くに政治犯を収容する刑務所があり、地図によると円形をしているが、何重もの塀で囲まれていて、表通りからでは中の様子がわからない。

小さな駅舎だが、屋根が増設されて雨の日にも大人数を収容できるのは、刑務所に面会に来る人たちのためだろうか。ホームには売店が置かれ、4段のガラスケースの最上段には歯磨き用品、化粧品、ベビーパウダーなど、二段目は石鹸、三段目にはノート、そして最下段には仏前に捧げる線香と、渦巻き蚊取り線香が仲良く入っている。ケースの上には鉛筆やおもちゃなどが置かれている。

ユワーマ駅の北東には官立の工業専門学校 **Government Technology College** がある。創建されたのは日清戦争のあった明治 27 (1895) 年で、当時は **Engineering School** (工業学校) と呼ばれ、公共土木建設局で働く技能労働者の育成が目的だった。現在は3年制で、大学より就学年数が少ないが、最初から実技指導があることで、若者に人気があるそうだ。

つまり鉄道技術の拠点だったインセイン駅を中心に、南のジョゴーン駅から北のユワーマ駅までが、理工系人材養成に充てられてきたのである。

バホ道路に大型の無蓋のトレーラーが何台も止まっているのは、チーク材輸送のためだろう。

駅の北の踏み切りから西へ折れ、バインナウン **Bayint Naung** 道路を渡ると、ユワーマ僧院と伝統医療病院がある。そこから先は YCDC 地図帳の記載が不正確で、Google の衛星画

像にも道路の標示もれが多いが(2013年現在)、曲がりくねった道を、とにかく西へ西へと歩いて行くと、木造二階建て住宅が並び、下水の北には路上市場がある。



図1. ユワーマ村西端の川岸に建てられた木道と竹の家

さらに西へ進むとやがて景色は一変して、高床式の木組みに、竹を編んだ壁と、ニッパヤシ葺いた屋根の漁村風景になる。

道もコンクリート舗装がとぎれて、土囊と木道にかわり、河岸に近づくと木の舟が繋がれている。

泥の川に、竹の家と、木の舟。潮汐の激しい環境に適応した素朴な生活様式は、ヨーロッパ人たちが最初に見たヤンゴンの風景と、あまり変わらないだろう。

帰りの汽車がなかなか来ないときは、ここ始発の48番バスで下町方面に帰ればよい。

(了)